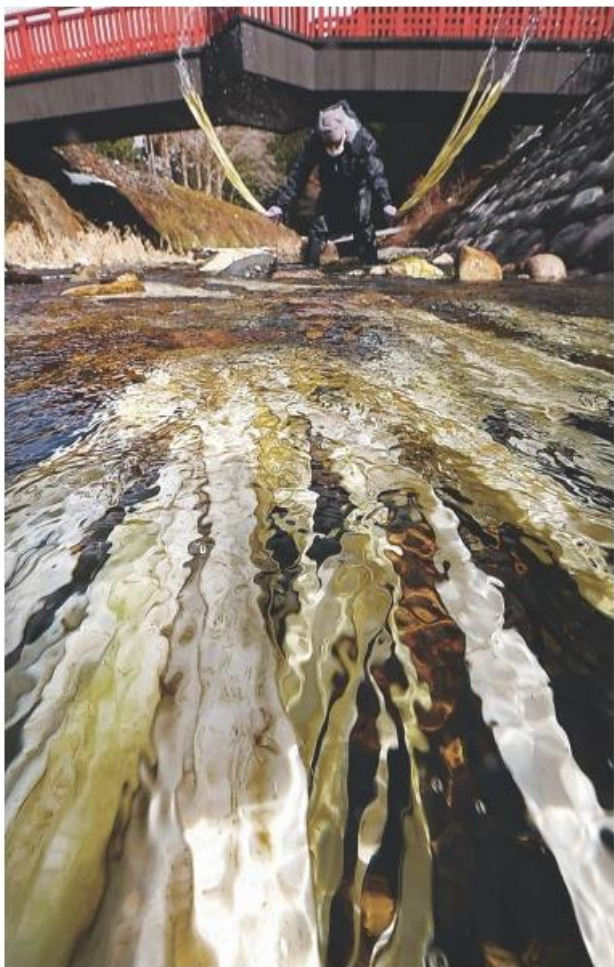


名前【 】

神戸新聞 2022年01月31日 月曜日 面名 朝一 14 1ページ



兵庫県の伝統的工芸品に指定されている杉原紙の原料コウゾの川さらしが、多可町加美区鳥羽の杉原紙研究所前で見られる。冬限定の工程で、冷たい流水に一昼夜さらし、日光を浴びると白さを増す。

コウゾは高さ3層近くなるクワ科の落葉低木。同町では各地で栽培された。昨年12月に計約8トが刈り取られた。約1層に切りそろえて蒸し、樹皮をはいで黒皮を除いて白皮だけにする。手作業の職人技だ。杉原紙は鎌倉時代、幕府の公用紙に使われたが、洋紙の普及などで大正期に生産が休止。旧加美町が半世紀前、研究所を設立した。20年間、紙作りに携わる藤田尚志さん(50)は「今季のコウゾは虫食いも少なくなきれいに仕上がりそう」。作業は3月末まで。同研究所 ☎0795・36・0080

(長嶺麻子)

流水で洗われるコウゾの白皮＝兵庫県多可町加美区鳥羽、杉原川



すぎはらがみ
杉原紙 流水で増す白さ 多可町

①多可町の杉原紙研究所前で見られる作業について言葉を入れましょう。

兵庫県の [] に指定されている杉原紙の原料 [] の [] が、多可町加美区鳥羽の杉原紙研究所前で見られる。

[] の工程で、[] に一昼夜さらし、日光を浴びると [] を増す。

②原料は刈り取ったあと、どのような手作業をしますか。

[]

③杉原紙の歴史について書きましょう。

[]

④兵庫県の伝統的工芸品について調べてみよう。

[]